



～ PROFILE ～

氏名：小室 弥生（こむろ やよい）
出身：京都府

手話推進員として活動中

地域おこし協力隊になったきっかけは？

新得に来る前は夫の出身地である仙台で暮らしていました。私は耳が不自由なので、何かあったときにご近所さんに助けていただかないといけないこともあるのですが、ご近所付き合いが少なく不安だったことと、コロナ禍も相まって人との交流を求めています。もともと北海道に憧れがあったので、北海道で仕事を探し始めました。「自分にできることは何だろうか？」と思いながら探している時に、地域おこし協力隊の「手話推進員」を見つけました。

日々の活動内容は？

小・中学校・支援学校で、手話授業を行っています。1年間に2～3時間なので、できることが限られていますが、とにかく「手話って楽しい」と感じてもらえるように取り組んでいます。この手話授業をきっかけに、大人になっても手話を続けてもらえると嬉しいです。

学校以外では、町民大学や出前講座、手話研修の講師、耳の不自由な方の通訳なども行っています。そのほか、新得町では全国手話検定試験を実施しているので、それに向けて受験者を対象に練習会などの活動も行っています。



今後の展望・目標は？

私の夢は、手話も言語のひとつなので、英語のように体系立てたテキストを作成することです。言語のひとつなのに、手話の本が「福祉」の棚にあることに対して、違和感を感じています。

英語などを学ぶときと同じような気持ちで、手話を学んでもらえると嬉しいです。



新得町手話推進キャラクター
手話ブルー

新得町（十勝）の魅力を教えてください！

新得には優しい方がたくさんいます。手話コーラスに参加していますが、ペーパードライバーで運転が苦手だと伝えると、「送り迎えしてあげるよ！」と言ってくださったり、ワクチンの副反応で熱が出て自宅で寝込んでいると伝えると、ポストに野菜やプリンなどを届けてくださいました。人との交流を求めて新得に来たので、こういうお付き合いができてとても嬉しいです。



もともと温泉が大好きなので、新得に温泉があることも新得を選んだ決め手のひとつです。ほかにも十勝には温泉がたくさんあるので、時には犬も一緒にいろいろな温泉を巡り、北海道・十勝の生活を満喫しています！

～新得町について～

北海道のど真ん中。美しく雄々しい東大雪の山々と日高山脈に抱かれ、素晴らしい四季の風景、旬の食材、温泉、乗馬にラフティングなど、自然と時間を贅沢に使った楽しい遊びにあふれるまち。町名は、アイヌ語で肘、山の突出部分を意味する「シットク」に由来し、新得山が佐幌川のほうに肘のように張り出ている地形を言い表したものとされている。（新得町HPより）



▲新得町のキャラクター
観光宣隊 しんとくレンジャー